

自主防災組織

東日本大震災時の自主防災活動
あの日あの時

宮城野区西原町内会



▲津波の被害（中野小屋上から西側を撮影する）



▲中野小に迫った火災

津波被害地域の自主防災活動

小学校屋上に避難した住民の一夜

西原町内会は世帯数 280 世帯で構成している町内会です。今回の震災では津波により多くの町内会の人々が犠牲になり、多くの住家が流出または全壊しました。

地震発生後直ちに、役員 5 名と手分けして町内会員の避難誘導している時に、携帯ラジオで津波の情報を知り、まず、一人暮らしの人を避難するように役員と手分けして町内を回り、中野小学校に避難させました。今回の震災の活動で悔しくてたまらないのは、役員の一人在活動中に津波に巻き込まれ犠牲になったことです。

津波発生直後、中野小学校の屋上に雪降るなか、550 名が避難していました。津波が引いた後は蒲生地区の住家は流出し、土台のみの情景を見た時、この世のものとは思われず呆然となりました。

また、津波が押し寄せた時に、小学校の西側では流出した自動車の燃料タンクから出火し、火災が発生し、家屋の瓦礫に延焼して中野小学校の 500 メートル近くまでに迫り、通報手段がない中で、昨年学校に配備になった防災行政無線で、消防局にヘリコプターの出場の要請をするよう校長先生にお願いしましたが、なかなかつながらず、やっと連絡がついた時、陸の孤島から脱出できたと思い、本当にホッとしました。まもなく、暗闇の中、消防ヘリコプターから空中消火し、火災が消火した時、学校屋上の避難者から歓喜と安堵の音が上がりました。また、火災現場近くで自宅の 2 階に避難した方からも、後日、消火された時は本当にホッとすると感謝されました。

また、夕方、上空を飛行しているヘリコプターにけが人等を救出してもらおうと、懐中電灯でヘリコプターに合図をしていましたがなかなか来てもらえずにいた時に、自衛隊のヘリコプターが降りてきて、けが人や体調の悪い人を搬送してもらいました。

翌日、明るくなってから、消防応援隊の札幌市消防局のヘリコプターで高齢者や子供たちを優先に搬送していただきました。搬送の優先順番は年齢や健康状態を基に、町内会役員と避難住民とが話し合って決定しました。また、学校から 1 km 近くまでの瓦礫の山が屋頂まで通れるようになり、午後から小学校の高学年や高齢者以外の人たちが市営バスで避難しました。なお、高齢者と子供たちは霞目駐屯地を経由して、各避難所に振り分けられました。

私は市立工業高校に避難し、約 300 人避難している避難所の運営委員長を行いました。発災後 2 日目の夜も寒さのため眠れませんでした。仙台市工業高校の体育館に 1 ヶ月の間避難をし、校長先生はじめ、先生方に大変お世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。